

第3回(10月期モニタリング／フィードバック 月例会議)

対象期間: 令和6年10月1日～令和6年10月31日 那覇港湾・空港整備事務所

		異常確認の有無	工事との関連性	対策の検討					
目視観察結果	<p>クビレミドロ監視地点では、st.1で1回(29測定中)、監視基準(SS=7mg/L)を超過した。 クビレミドロ監視地点での最大値は10月24日のst.1で8.2mg/Lであった。 工事の濁り監視地点での最大値は10月31日のst.12で10.8mg/Lであった。 基準超過時は、全域において調査前2日間で19.5mm、当日に168.5mmの降雨による陸域から流出した土砂や濁水が流入し、茶色の濁りが確認された。</p>		<p>今月の県施工事は、県道20号線(泡瀬工区)で、汚濁防止膜設置、汚濁防止膜移設、仮棧台撤去、鋼管杭引抜き、閉塞工等が行われていた。施工箇所からの濁りの拡散は確認されなかった。</p> <p>今月の国施工事は、汚濁防止膜カーテン捲り、汚濁防止膜復旧、泊地浚渫、土運船運搬、揚土等が行われていたが、施工箇所からの濁りの拡散は確認されなかった。</p>						
	水質調査結果	<table border="1"> <tr> <td>クビレミドロ監視地点基準値【st.1～3: SS=7mg/L】</td> <td>st.1は10/24において、監視基準(SS=7mg/L)を超過した 平均値は3.3mg/L、1.4～8.2mg/Lの範囲で推移していた。</td> </tr> <tr> <td>工事の濁り監視地点基準値【st.4～12: SS=11mg/L】</td> <td>全ての地点で、監視基準(SS=11mg/L)を満足していた。 平均値は2.1mg/L、0.2～10.8mg/Lの範囲で推移していた。</td> </tr> <tr> <td>流入部負荷量の調査地点</td> <td>SS=11mg/Lを超えた回数: st.13=18回(29計測中) SS=50mg/Lを超えた回数: st.13=1回(29計測中) 平均値は16.4mg/L、3.6～54.1mg/Lの範囲で推移していた。</td> </tr> <tr> <td>流入水路部調査地点(st.13)は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。</td> <td>10/26の54.1mg/Lが最大値であった。 なお、降水量は前々日168.5mm、前日2.0mm、当日0.0mmであった。</td> </tr> </table>			クビレミドロ監視地点基準値【st.1～3: SS=7mg/L】	st.1は10/24において、監視基準(SS=7mg/L)を超過した 平均値は3.3mg/L、1.4～8.2mg/Lの範囲で推移していた。	工事の濁り監視地点基準値【st.4～12: SS=11mg/L】	全ての地点で、監視基準(SS=11mg/L)を満足していた。 平均値は2.1mg/L、0.2～10.8mg/Lの範囲で推移していた。	流入部負荷量の調査地点
クビレミドロ監視地点基準値【st.1～3: SS=7mg/L】	st.1は10/24において、監視基準(SS=7mg/L)を超過した 平均値は3.3mg/L、1.4～8.2mg/Lの範囲で推移していた。								
工事の濁り監視地点基準値【st.4～12: SS=11mg/L】	全ての地点で、監視基準(SS=11mg/L)を満足していた。 平均値は2.1mg/L、0.2～10.8mg/Lの範囲で推移していた。								
流入部負荷量の調査地点	SS=11mg/Lを超えた回数: st.13=18回(29計測中) SS=50mg/Lを超えた回数: st.13=1回(29計測中) 平均値は16.4mg/L、3.6～54.1mg/Lの範囲で推移していた。								
流入水路部調査地点(st.13)は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。	10/26の54.1mg/Lが最大値であった。 なお、降水量は前々日168.5mm、前日2.0mm、当日0.0mmであった。								
基準超過時の気象概況	<p>・10月24日は、風向はNE、風力は2~3、波高は0~0.9m程度であった。降雨は調査前2日間で19.5mm、当日が168.5mmであった。</p>		<p>【調査位置図】</p>						
基準超過時の工事状況	<p>基準超過時は、県施工事は行われておらず早朝の一時だけ浚渫が行われていた。</p>								

第7回(10月期モニタリング／フィードバック 月例会議)

対象期間: 令和6年10月1日～令和6年10月31日 沖縄県調査分

		異常確認の有無	工事との関連性	対策の検討
目視観察結果	<p>調査地点の最高値は、10月24日(AM及びPM)にst.5で観測された26 mg/Lであった。 工事の濁り監視地点では、st.5で2回、st.7で1回、st.8で1回、監視基準(SS=11 mg/L)を超過した。 原因としては、降雨による河川流入水の影響、波浪による底質巻き上げの影響が考えられた。 その他の調査においては、工事監視基準値を満足していた。</p>		<p>10/24: 当日の地点周辺では海上工事は行われておらず、当該地点では塩分が著しく低下していたことから、降雨により増加した河川流入水の影響によるものと考えられた。</p> <p>10/31: 当日の海上工事箇所直近の地点では工事監視基準を満たしており、人工島沖側の当該地点においては、台風21号の影響による波浪で底質が巻き上げられたことによるものと考えられた。</p> <p>いずれも工事に伴う濁りは確認されなかった。</p>	
	工事の濁り監視地点基準値【st.5～8: SS=11mg/L】	<p>10/24 st.5(AM・PM),10/31 st.7(AM 下げ潮時),st.8(AM 下げ潮時)で工事監視基準値を超過した。</p> <p>平均値は3.8 mg/L、<1.0～26 mg/Lの範囲で推移していた。</p>		
	詳細結果 流入部負荷量の調査地点	<p>SS=11 mg/Lを超えた回数: st.14 = 29計測中24回 st.15 = 29計測中28回</p>	特になし	
		<p>SS=50 mg/Lを超えた回数: st.14 = 29計測中3回 st.15 = 29計測中0回</p>		
流入水路部調査地点(st.14、st.15)は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。	<p>st.14: 10/31 (AM 下げ潮時) 136 mg/Lが最大値であった。 調査時には波浪による底質巻き上げの影響が見られた。 なお、調査時までの降水量は前々日16.0mm、前日0.5mm、当日0.0mmであった。(気象庁・胡屋)</p> <p>st.15: 10/13 (PM 上げ潮時) 25 mg/Lが最大値であった。 なお、調査時までの降水量は前々日0.0mm、前日0.0mm、当日0.0mmであった。(気象庁・胡屋)</p>			
基準超過時の気象概況	<p>基準超過時の気象概況は以下の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月24日(AM)は、風向が北、風力が1、波高が0.0～0.1m程度であった。 ・10月24日(PM)は、風向が北～北東、風力が1～2、波高が0.0～0.2m程度であった。 調査時までの降水量は前々日0.0mm、前日19.5mm、当日164.5mmであった。 ・10月31日(AM)は、風向が東、風力が3～4、波高が0.1～0.5m程度であった。 調査前までの降水量は前々日16.0mm、前日0.5mm、当日が0.0mmであった。 		<p>【調査位置図】</p>	
基準超過時の工事状況	<p>基準超過時の工事内容は以下の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月24日(AM)は、新港地区において泊地浚渫が行われていた。 ・10月24日(PM)は、海上工事の実施はなかった。 ・10月31日(AM)は、県道20号において仮棧台撤去、H鋼杭引き抜きが行われていた。 			

